

第 3 編 道 路 編

1 章	舗装工	道路	1
2 章	付属施設工	道路	25
3 章	道路維持修繕工	道路	67
4 章	鋼橋上部工	道路	125
5 章	コンクリート橋上部工	道路	153
6 章	鋼製橋脚設置工	道路	187
7 章	橋台・橋脚工	道路	191
8 章	橋梁補修工	道路	197
9 章	トンネル工	道路	211
10 章	共同溝工	道路	227

1 章 舗 装 工

1. 1 不陸整正	道路 - 3
1. 2 路盤工	道路 - 5
1. 3 アスファルト舗装工	道路 - 8
1. 4 半たわみ性（コンポジット）工	道路 - 12
1. 5 コンクリート舗装工	道路 - 13
1. 6 連続鉄筋コンクリート舗装工	道路 - 15
1. 7 排水性アスファルト舗装工	道路 - 16
1. 8 透水性アスファルト舗装工	道路 - 17
1. 9 グースアスファルト舗装工	道路 - 18
1. 10 薄層カラー舗装工	道路 - 19
1. 11 橋面防水工	道路 - 20
1. 12 平石張工	道路 - 21
1. 13 踏掛版工	道路 - 23

1 章 舗装工

1. 1 不陸整正

不陸整正とは、舗装又は路盤工の施工前に路盤工表面又は路床面の不陸を整正する作業をいう。

(1) 数量算出にあたっての留意事項

- ① 単年度改良・舗装の場合は、不陸整正は計上しないことを標準とする。ただし、舗装及び路盤工の施工前にやむを得ず暫定供用する場合など不陸が生じる場合においては、必要に応じて計上することができる。
- ② 過年度に路盤工、路床が完成し、その後現場条件、気象条件等によりそれらの面に不陸を生じた場合には計上する。

(2) 補足材料

補足材料が必要な場合に計上する。

1. 適用

アスファルト舗装及びコンクリート舗装工等の不陸整正に適用する。

2. 数量算出項目

路床及び路盤の不陸整正の面積を区分ごとに算出する。
なお、路盤材（補足材）が必要な場合は、その対象面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、補足材料の有無、補足材料平均厚さ、補足材料の規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	BIM/CIM モデル	補足材料 の有無	補足材料 平均厚さ	補足材料 の規格	単位	数量	備考
不陸整正	B	○	○	○	m ²		
不陸整正（ICT）	B	○	○	○	m ²		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする。

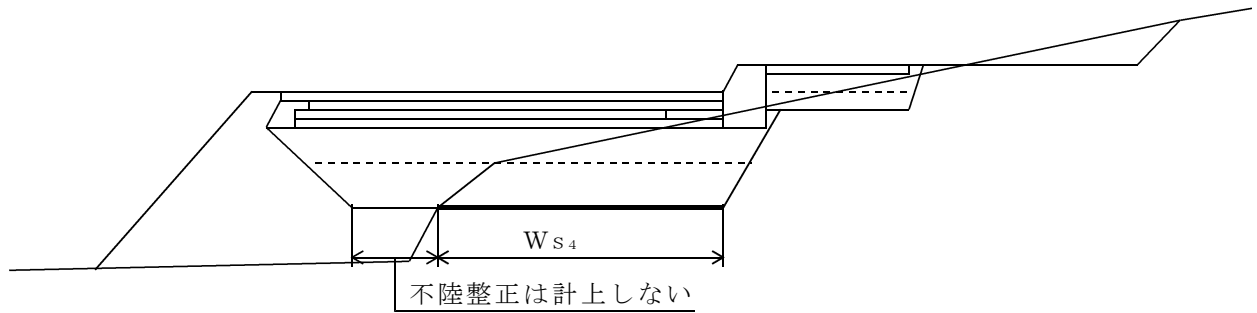
(2) 施工箇所区分

本線、取付け道路等の施工箇所ごとに区分して算出する。

4. 数量算出方法

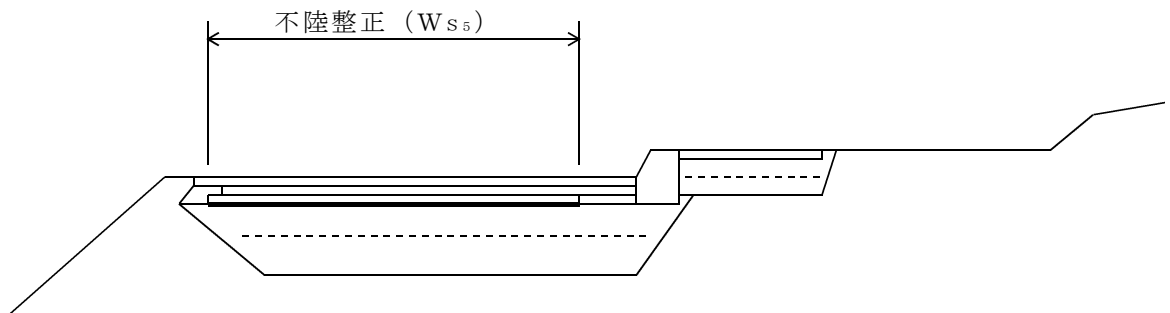
(1) 不陸整正 (1)

路床（凍上抑制層下面）の不陸整正は、切土箇所のみを計上することとし数量の算出は次図を参考とする。



(2) 不陸整正 (2)

車道部下層路盤上面の不陸整正の設計幅は、次図のとおりとする。



1. 2 路盤工

1. 適用

アスファルト舗装及びコンクリート舗装工事の路盤工（瀝青安定処理路盤を含む）に適用する。

2. 数量算出項目

下層路盤、凍上抑制層、上層路盤の面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、平均厚さ、規格、平均幅員、瀝青材料種類・締固め後密度とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/ CIM モデル	規格 (材料)	仕上り厚		施工 区分	平均 幅員	瀝青材 料種類 ・締固 め後密 度	単 位	数 量	備 考
				一層当り 平均仕上 り厚 (mm)	全仕上 り厚 (mm)						
凍上抑制層（車道部）		B	○	—	○	○	—	—	m ²		
凍上抑制層（車道部） （ICT）		B	○	—	○	○	—	—	m ²		
凍上抑制層（歩道部）		B	○	—	○	○	—	—	m ²		
下層路盤（車道・路肩部）		B	○	—	○	○	—	—	m ²		
下層路盤（車道・路肩部） （ICT）		B	○	—	○	○	—	—	m ²		
下層路盤（歩道部）		B	○	—	○	○	—	—	m ²		
上層路盤（車道・路肩部）		B	○	○	○	○	○	○	m ²		
上層路盤（車道・路肩部） （ICT）		B	○	—	○	○	○	—	m ²		
上層路盤（歩道部）		B	○	—	○	○	—	—	m ²		

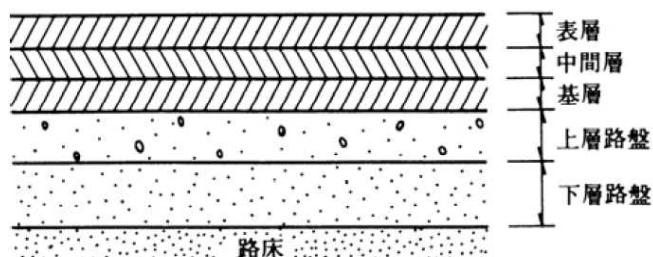
※歩道においても下層路盤と凍上抑制層に区分すること。

注) 上層路盤（車道・路肩部）における仕上がり厚区分について、規格（材料）が瀝青安定処理材の場合は「一層当り平均仕上り厚」、粒度調整砕石の場合は「全仕上り厚」を適用する。

(2) 平均厚さ区分及び規格区分

路盤の平均厚さ及び材料の規格ごとに区分して算出する。

(アスファルト舗装の構成例)



(3) 平均幅員区分

- ① 1.4 m未満
- ② 1.4 m以上3.0 m以下
- ③ 3.0 m超

(4) 施工区分

- ① 1層施工
- ② 2層施工
- ③ 3層施工
- ④ 4層施工
- ⑤ 5層施工
- ⑥ 6層施工

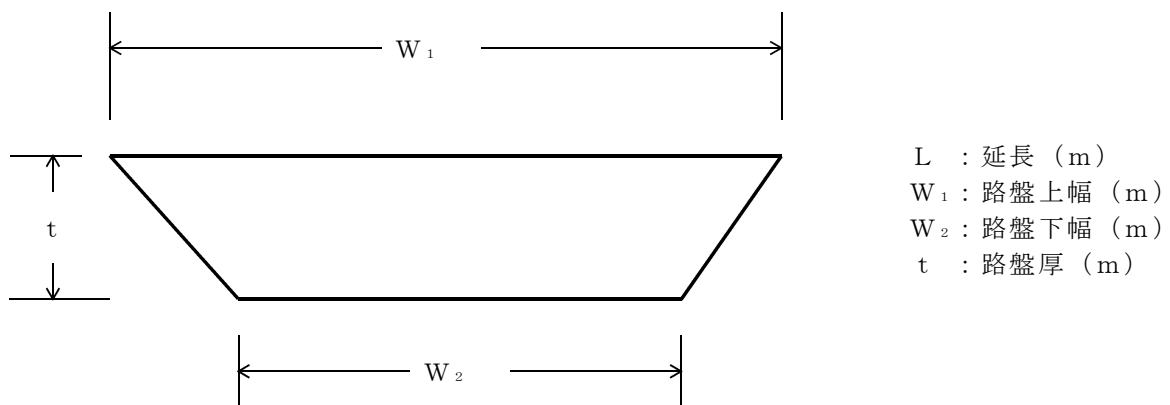
4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか次の方法によるものとする。

なお数量については、道路工事標準設計図集（路盤工）に1 m当りの体積及び施工面積が掲載されており、その数量に延長を乗じて算出する。

1) 路盤工数量

歩車道路盤及び車道凍上抑制層、取付け道路路盤及び敷砂利、仮道工等の路盤数量算出に際しては次のとおりとする。



路盤体積：V (m³)

$$V = (W_1 + W_2) / 2 \times t \times L$$

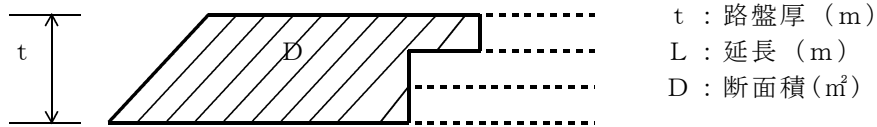
施工面積：A (m²) (契約対象数量)

$$A = V / t$$

$$\left[\begin{array}{l} \text{路盤工1層当り仕上厚：} t_2 \text{ (m)} = 0.2 \text{ (m)} \text{ (下層路盤)} \\ \text{敷均し及び仕上層数：} N \text{ (層)} = t / t_2 = t / 0.2 \text{ (少数第1位切上げ整数止)} \end{array} \right.$$

2) 装甲路盤数量

装甲路盤の数量算出に際しては次のとおりとする。



路盤体積 : V (m³)

$$V = D \times L$$

施工面積 : A (m²) (契約対象数量)

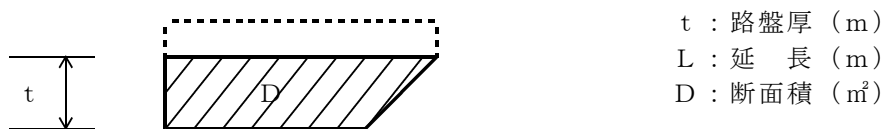
$$A = V / t$$

路盤工1層当り仕上厚 : t_2 (m) = 0.2 (m) (下層路盤)

敷均し及び仕上層数 : N (層) = $t / t_2 = t / 0.2$ (少数第1位切上げ整数止)

3) 保護路肩粗粒材の設計数量は次のとおりとする。

数量算出例 (防護盛土部)



路盤体積 : V (m³)

$$V = D \times L$$

施工面積 : A (m²) (契約対象数量)

(設計数量) $A = V / t$

工種内訳表の作成

1 m²当り材料費 = (1 m³当り資材単価) × t = (1 m³当り資材単価) × 0.1 m

1 m²当り施工費 = (1 m²当り施工歩掛)

1. 3 アスファルト舗装工

1. 適用

アスファルト舗装工における基層・中間層・表層及び縁石工におけるアスカーブに適用する。なお、アスファルト混合物が現地プラント方式の場合、アスファルト混合物の締固め後密度が1.90t/m³未満、2.50t/m³以上の場合を除く。

2. 数量算出項目

車道・路肩部、歩道部の別に基層、中間層、表層の面積を、アスカーブの延長をそれぞれ区分ごとに算出する。面積＝本線＋すりつけ部＋非常駐車帯を算出する。

3. 区分

区分は、基層・中間層・表層は1層当りは平均仕上り厚、平均幅員、規格、瀝青材料種類とし、アスカーブは断面積、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	1層当り平均仕上り厚 (mm)	平均幅員	断面積	規格 (材料)	瀝青材料種類	単位	数量	備考
基層 (車道・路肩部)		○	○	—	○	○	m ²		
中間層 (車道・路肩部)		○	○	—	○	○	m ²		
表層 (車道・路肩部)		○	○	—	○	○	m ²		
基層 (歩道部)		○	○	—	○	○	m ²		
中間層 (歩道部)		○	○	—	○	○	m ²		
表層 (歩道部)		○	○	—	○	○	m ²		
アスカーブ		—	—	○	○	—	m		
保護路肩粗粒材		○	○	—	○	—	m ²		
保護路肩舗装		○	○	—	○	○	m ²		

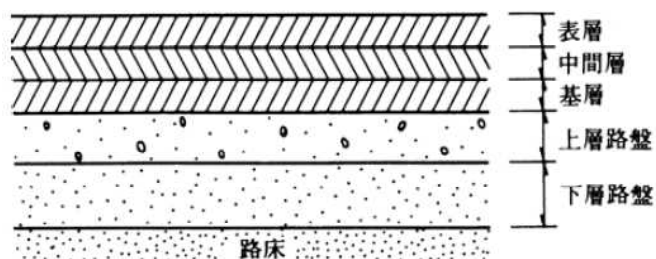
(注) 施工幅は、交通切り回しに伴い、分割施工となる交差点の舗装、管路等の埋設・道路付属物等の設置及び補修に伴う舗装の復旧等の場合に区分して算出する。

(2) 1層当り平均仕上り厚及び規格・瀝青材料種類区分

舗装の厚さ及び材料の規格（再生密粒As13、再生粗粒As20、再生As安定処理路盤等）、瀝青材料種類（タックコート、プライムコート等）ごとに区分して算出する。

材料の規格は締固め後密度も示す。

(アスファルト舗装の構成例)



(3) 平均幅員区分

平均幅員による区分は、下記の通りとする。

- ① 1.4 m未満
- ② 1.4 m以上3.0 m以下
- ③ 3.0 m超

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか次の方法によるものとする。

なお数量については、道路工事標準設計図集（舗装工）に1m当りの体積及び施工面積が掲載されており、その数量に延長を乗じて算出する。

《参考資料》 冬期舗装工事における路面ヒーター（融雪用）の積算について

1. 適用範囲

本資料は、冬期舗装工事における以下の場合に適用する。

- (1) 路盤の転圧効果を確保するため、既設路盤の凍結の融解を目的として計上する場合。
- (2) 舗装舗設作業に当たってのタックコート乳剤散布前に舗装表面を乾燥させる必要がある場合。
- (3) 乳剤散布後において散布した乳剤の養生が必要な場合。

2. 適用除外

ゼロ国債及びゼロ道債には適用しない。

3. 標準機種

搭乗けん引式バーナー方式路面ヒーターを標準とする。

（「土木工事積算基準 機械工 路面ヒーター（融雪用）」による。）

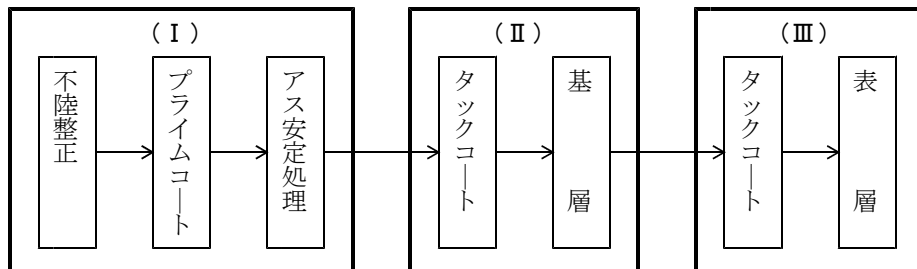
4. 運転歩掛

路面ヒーター（融雪用）の運転費は、「土木工事積算基準 機械工 路面ヒーター（融雪用）」による。

5. 計上にあたっての留意点

- ① 設計書への計上は間接工事費とし、共通仮設費のうち準備費の積み上げ項目とする。
- ② 算出時間は概数により計上し（別紙-2）、現場の実稼働時間で精算すること。
- ③ 特記仕様書に概数であることを明示して、別添の路面ヒーター稼働時間調書を提出させること。
- ④ 冬期舗装工事は「土木工事共通仕様書第1編第3章第6節1-3-6-5 アスファルト舗装工2(8)」によることを原則とするが、気象条件が厳しい工事箇所が必要な作業について計上すること。

○路面ヒーターの稼働時間の算出



※ 不陸整正後のプライムコート・アス安定処理の作業工程は、一連作業として仕上げる人が多いためプライムコート散布時にはヒーターを計上していない。

<積算例> 工事延長 500m 舗装幅員 8m 平均幅員 3.0m超の場合 面積 A = 4,000 m²

※当初設計の概数時間を算出する場合の舗装（路盤）面積は路肩を含む表層全幅員で算出する。

着工時(I) = 4,000m² ÷ 1,510m²(注1) × 8h/日 = 21h (注1)不陸整正の日当り施工量

乳剤散布時(II) = 4,000m² ÷ 2,300m²(注2) × 8h/日 = 14h (注2)舗装機械舗設の日当り施工量

乳剤散布時(III) = 4,000m² ÷ 2,300m²(注2) × 8h/日 = 14h (注2)舗装機械舗設の日当り施工量

○現場監督に関する留意事項

ヒーターの作業時間は気象状況により大きく変わるため個々の現場で違いがあり、また、出来高として残らない作業内容であるため、作業に要した時間が適正かつ正確な時間かを説明し得る写真管理、書類整理が必要となる。

稼働時間の確認にあたっては、下記留意事項に基づき適正に指導すること。

《写真撮影》

ヒーター稼働前 黒板に工事名、作業内容、測点(SPOO~△△)、開始時間等を記入

ヒーター停止時 黒板に工事名、作業内容、測点(SPOO~△△)、停止時間等を記入

1. 4 半たわみ性（コンポジット）工

1. 適用

開粒度タイプ加熱アスファルト混合物を舗設後、セメントミルクを浸透させる半たわみ性舗装工及び半たわみ性コンポジット舗装工におけるセメントミルク浸透に適用する。
なお、アスファルト混合物の舗設はアスファルト舗装工を適用する。

2. 数量算出項目

セメントミルク浸透の数量を区分ごとに算出する。

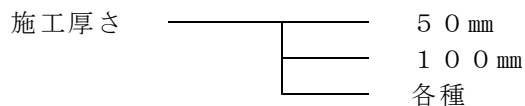
3. 区分

区分は、施工厚さ、浸透用セメントミルク種類とする。

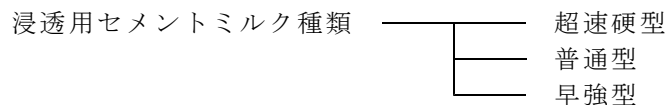
(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	施工厚さ	浸透用セメント ミルク種類	浸透用セメント ミルク使用量 (ℓ/100m ²)	単位	数量	備考
セメントミルク浸透	○	○	○	m ²		

(2) 施工厚さによる区分は、以下のとおりとする。



(3) 浸透用セメントミルク種類による区分は、以下のとおりとする。



関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
表層（車道、路肩部）	m ²		第3編（道路編）1.3アスファルト舗装工」参照

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。

1. 5 コンクリート舗装工

1. 適用

コンクリート舗装工（連続鉄筋コンクリート舗装工・転圧コンクリート舗装工は除く）に適用する。

2. 数量算出項目

コンクリート舗装、縦目地、横目地の数量を区分ごとに算出する。
 なお、路盤の数量は、「第3編（道路編）1.2 路盤工」に、アスファルト中間層の数量は、「第3編（道路編）1.3 アスファルト舗装工」により算出する。

3. 区分

区分は、施工箇所、舗装厚、規格、施工方法とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

1) コンクリート舗装

区分 項目	施工 箇所	舗装厚	規 格 (材料)	施 工 方法	単 位	数 量	備 考
コンクリート舗装	○	○	○	○	m ²		
鉄 網			○		m ²		舗装100m ² 当り
鉄 筋 鉄 網			○		t		〃
補 強 鉄 筋			○		t		〃

2) 縦目地

区分 項目	施工 箇所	舗装厚	規 格 (材料)	施 工 方法	単 位	数 量	備 考
タ イ バ ー	○	○	○	○	本		目地1000m当り
ねじ付きタイバー			○		本		〃
ク ロ ス バ ー			○		kg		〃
チ ャ ー			○		個		〃
目 地 板			○		m ²		〃
注 入 目 地 材			○		kg		〃
シ ー ル 材			○		kg		〃
木材又はL型 プラスチック材			○		m		〃

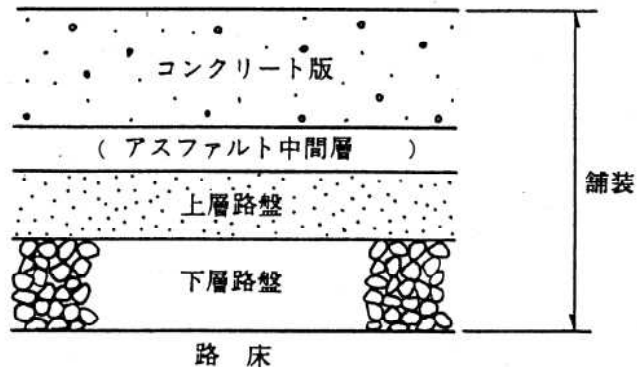
3) 横目地

区分 項目	施工 箇所	舗装厚	規 格 (材料)	施 工 方法	単 位	数 量	備 考
スリップバー	○	○	○	○	本		目地1000m当り
キャップ付 スリップバー			○		本		〃
ク ロ ス バ ー			○		kg		〃
チ ャ ー			○		個		〃
目 地 板			○		m ²		〃
注 入 目 地 材			○		kg		〃

(2) 施工箇所区分

本線、副道、歩道等の施工箇所ごとに区分して算出する。

(コンクリート舗装の構成)



(3) 施工方法区分

施工方法による区分は、下表のとおりとする。

施 工 方 法	
機 械 施 工	① 1 車 線 施 工
	② 2 車 線 施 工
人 力 施 工	

1. 6 連続鉄筋コンクリート舗装工

1. 適用

連続鉄筋コンクリート舗装工に適用する。

2. 数量算出項目

コンクリート舗装、縦目地の数量を区分ごとに算出する。
 なお、路盤工の数量は、「第3編（道路編）1. 2 路盤工」に、アスファルト中間層の数量は、「第3編（道路編）1. 3 アスファルト舗装工」により算出する。

3. 区分

区分は、施工箇所、舗装厚、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

1) コンクリート舗装

項目 \ 区分	施工箇所	舗装厚	規格 (材料)	単位	数量	備考
コンクリート舗装	○	○	○	m ²		
鉄筋	○	○	○	t		舗装100m ² 当り

2) 縦目地

縦目地については、「第3編（道路編）1. 5 コンクリート舗装工」による。

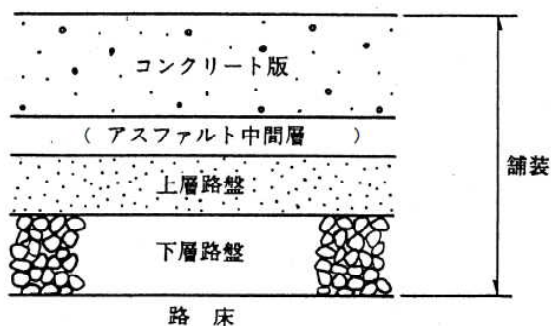
3) 横目地

横目地については、必要に応じて「第3編（道路編）1. 5 コンクリート舗装工」による。

(2) 施工箇所区分

本線、副道、歩道等の施工箇所ごとに区分して算出する。

(連続鉄筋コンクリート舗装の構成)



1. 7 排水性アスファルト舗装工

1. 適用

車道における排水性アスファルト舗装工に適用する。
 なお、平均施工幅員が1.4m未満の場合において、1層当り平均仕上り厚が50mmを超える場合、平均施工幅員が2.4m以上の場合において、1層当り平均仕上り厚が65mm以上の場合を除く。

2. 数量算出項目

排水性アスファルト舗装面積、導水パイプ延長を区分ごとに算出する。面積＝本線＋すりつけ部＋非常駐車帯を算出する。

3. 区分

区分は、平均施工幅員、1層当り平均仕上り厚、導水パイプの設置の有無、片側車線数、規格、瀝青材料の規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	平均施工幅員	1層当り平均仕上り厚 (mm)	導水パイプの設置の有無	片側車線数	規格 (材料)	瀝青材料の規格	単位	数量	備考
排水性舗装・表層 (車道・路肩部)	○	○	○	○	○	○	m ²		
導水パイプ	—	—	—	—	○	—	m		平均施工幅1.4m未満

(2) 平均施工幅員

平均施工幅員による区分は、下記のとおりとする。

- ① 1.4m未満
- ② 2.4m以上

(3) 規格区分

材料の規格を示すとともに、締固め後密度も示す。

1. 8 透水性アスファルト舗装工

1. 適用

歩道における透水性アスファルト舗装工に適用する。

2. 数量算出項目

フィルター層面積、透水性アスファルト舗装面積を区分ごとに算出する。
なお、路盤の数量は、「第3編（道路編）1. 2路盤工」により算出する。

3. 区分

区分は、平均幅員、1層当り平均仕上り厚、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	規格 (材料)	平均幅員	1層当り平均 仕上り厚	単位	数量	備考
フィルター層	○	—	○	m ²		
透水性アスファルト舗装	○	○	○	m ²		

(2) 規格区分

材料の規格を示すとともに空隙率（フィルター層は除く）、締固め後密度も示す。

(3) 平均幅員区分

透水性アスファルト舗装の平均幅員（W）による区分は、下記のとおりとする。

- ① $W \geq 1.4 \text{ m}$
- ② $W < 1.4 \text{ m}$

(透水性アスファルト舗装の構成例)



1. 9 グースアスファルト舗装工

1. 適用

グースアスファルト舗装に適用する。

2. 数量算出項目

グースアスファルト舗装面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、舗装厚、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	舗装厚	規格	単位	数量	備考
グースアスファルト舗装	○	○	m ²		
プレコート砕石	—	○	kg		必要な場合
目地材	—	○	m		必要な場合

(2) 舗装厚区分

グースアスファルト舗装面積を舗装厚ごとに区分して算出する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか次の方法によるものとする。

(1) プレコート砕石・目地材の数量は、グースアスファルト舗装100m²当り必要量を算出する。

1. 10 薄層カラー舗装工

1. 適用

薄層カラー舗装工に適用する。

2. 数量算出項目

薄層カラー舗装面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格、舗装厚とする。

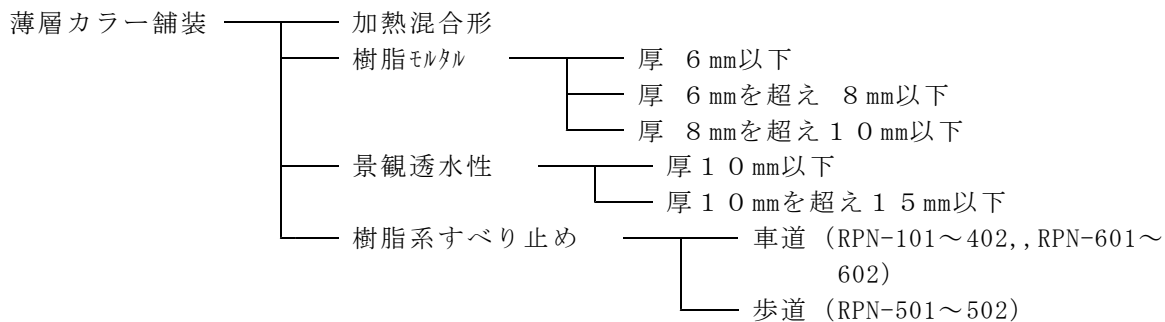
(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区 分 項 目	規格・舗装厚	単位	数量	備 考
薄層カラー舗装	○	m ²		

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 薄層カラー舗装は次の区分により算出する。



- (注) 1. 樹脂系すべり止め舗装の区分は、規格・仕様別に区分して算出する。
 2. 樹脂モルタルについては、一般部と階段ステップ部に区分して算出する。

(2) 加熱混合形薄層カラー舗装は、「第3編（道路編）1章舗装工 1.3アスファルト舗装工」による。

1. 1.1 橋面防水工

1. 適用

シート系防水（アスファルト系）、塗膜系防水（アスファルト系）による橋面の防水工に適用する。

2. 数量算出項目

施工面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	規格	単位	数量	備考
橋面防水	○	m ²		
ドレーン材	○	m		防水100m ² 当たり
目地材	○	m		防水100m ² 当たり

(2) 規格区分

シート系防水及び塗膜系防水ごとに区分して算出する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか次の方法によるものとする。

(1) 施工面積には、端部処理の立上り面積は含めない。

1. 1.2 平石張工

1. 適用

一般土木工事及び公園工事で施工する遊歩道、歩道、広場等の舗装・床掘り、階段（踏面幅1,200mm以下、蹴上高400mm以下）及び壁張りにおける平石張工に適用する。

平石材料規格

作業区分 形状区分	舗装・床張り	階段	壁張り
乱形石	φ 50～600mm程度 平均厚さ 10～60mm程度 質量15kg程度まで	φ 80～400mm程度 平均厚さ 15～40mm程度 質量6kg程度まで	φ 60～300mm程度 平均厚さ 15～50mm程度 質量7kg程度まで
方形石	短辺100mm以上 長辺1,500mm以下 厚さ25～120mm 質量60kgまで	短辺100mm以上 長辺920mm以下 厚さ40～170mm 質量130kgまで	短辺140mm以上 長辺600mm以下 厚さ30～120mm 質量60kgまで

（注）質量は、石材1枚当りである。

2. 数量算出項目

平石張、平石（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格、作業区分、平石の形状区分とする。

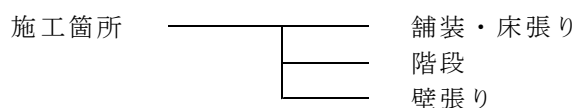
（1）数量算出項目及び区分一覧表

区 分 項 目	規 格	作 業 区 分	平石の形状区分	単 位	数 量	備 考
平石張	×	○	○	m ²		
平石（材料費）	○	○	○	m ²		

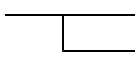
注）1．平石（材料費）は、乱形石については径・平均厚さ・質量を、方形石については短辺・長辺・厚さ・質量も算出する。

（2）施工箇所

施工箇所による区分は、次のとおりとする。



(3) 平石の形状区分は以下のとおりとする。

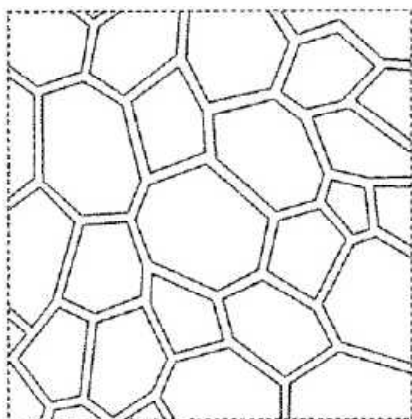
平石の形状区分  乱形石
方形石

4. 数量算出方法

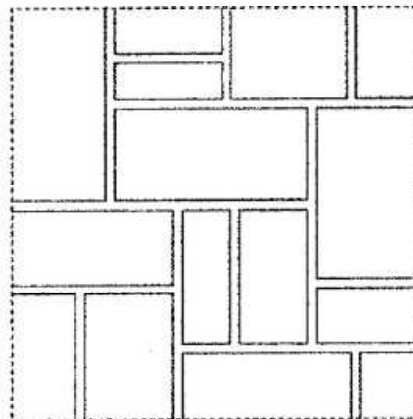
数量算出は、「第1編（共通編）1基本事項」による。

5. 参考図

乱形石



方形石



1. 1.3 踏掛版工

1. 適用

厚さ0.35m以上0.60m以下の現場打ちの踏掛版の設置に適用する。
ただし、主たる鉄筋が太径鉄筋(D38以上D51以下)の場合には適用しない。

2. 数量算出項目

コンクリート体積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、コンクリート規格、鉄筋量、ゴム支承の有無、鉄筋材料規格・径とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	コンクリート規格	鉄筋量	ゴム支承の有無	鉄筋材料規格・径	単位	数量	備考
踏掛版	○	○	○	○	m ³		

- 注) 1. アンカーボルトは踏掛版受台にて施工されるため含まない。
2. 鉄筋量は、踏掛版1箇所当りの鉄筋量とする(スパイラル筋は含まない)。
3. 路盤材の敷設は含まない。
4. コンクリートのロスを含む。

(2) 鉄筋量区分

- ① 0.08t/m³ 以上 0.10t/m³ 未満
- ② 0.10t/m³ 以上 0.12t/m³ 未満
- ③ 0.12t/m³ 以上 0.14t/m³ 未満
- ④ 0.14t/m³ 以上 0.16t/m³ 未満
- ⑤ 0.16t/m³ 以上 0.18t/m³ 未満
- ⑥ 0.18t/m³ 以上 0.20t/m³ 未満
- ⑦ 0.20t/m³ 以上 0.22t/m³ 未満
- ⑧ 0.22t/m³ 以上 0.24t/m³ 未満
- ⑨ 0.24t/m³ 以上 0.26t/m³ 未満
- ⑩ 0.26t/m³ 以上 0.28t/m³ 未満
- ⑪ 0.28t/m³ 以上 0.30t/m³ 未満
- ⑫ 0.30t/m³ 以上 0.32t/m³ 未満
- ⑬ 0.32t/m³ 以上 0.34t/m³ 未満

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章 基本事項」によるほか次の方法によるものとする。

- (1) 作業土工は、「第1編(共通編)2章 土工」によるものとする。

